

肥料コスト低減体系緊急転換事業 取組状況

(令和5年2月28日現在)

1. 取組者

神奈川県小田原市の水稻生産者

2. 取組内容

水稻栽培における緑肥を活用した肥料コスト低減対策

3. 取組概要

水稻栽培における施肥を、慣行の肥料から緑肥に切り替え、現在の肥料使用量 159 kg/30a の全量を削減し、れんげ種子 9 kg/30a とすることを目指す。初年度においては、れんげの播種量を 3 kg/30a とし、適宜、生育状況により追肥等で化成肥料の施肥を行い、慣行施肥との生産量および品質の比較を行う。

4. 取組み経過

年月日	内容
令和4年 9月29日	サンプル抽出スパーテル 購入
10月 7日	土壌分析装置 購入 カートリッジ 購入 成分抽出液 購入
11月28日 12月17日	土壌診断実施
令和5年 2月18日	緑肥(れんげ) 播種 30アール (播種量 1kg/10a 計3kg)

* 当初計画では 3 kg/10a を播種する予定であったが、令和4年産でれんげを施用した近隣の生産者で倒伏した事例があったことをふまえ、れんげの播種量を 1 kg/10a とした。

4. 今後の取組方針

入水前にれんげをすき込み、水稻の生育状況を注視し、必要に応じ追肥等で化成肥料の施肥を行う。収穫後に慣行施肥との生産量および品質の比較を行い、十分な収量および品質が得られた場合、次年度においては播種量の増加および追肥の施用量を削減する。